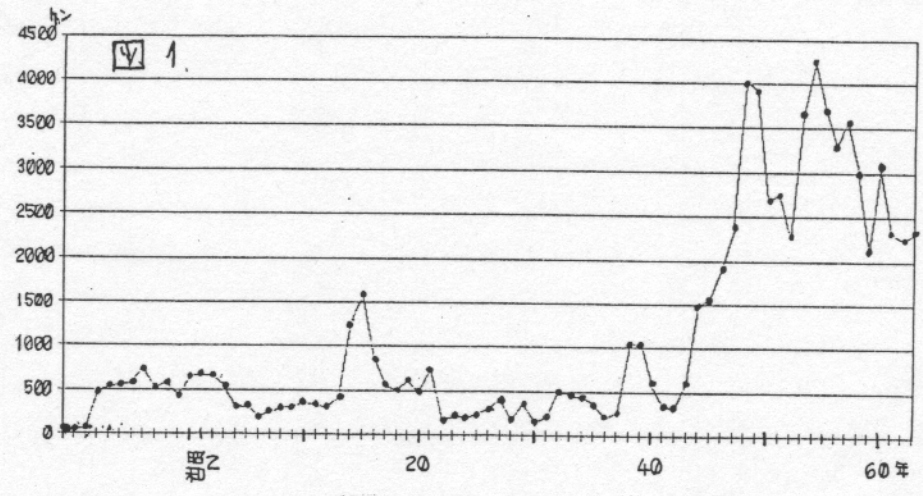


# 内水試 かわら版 101

## エビ資源の動向

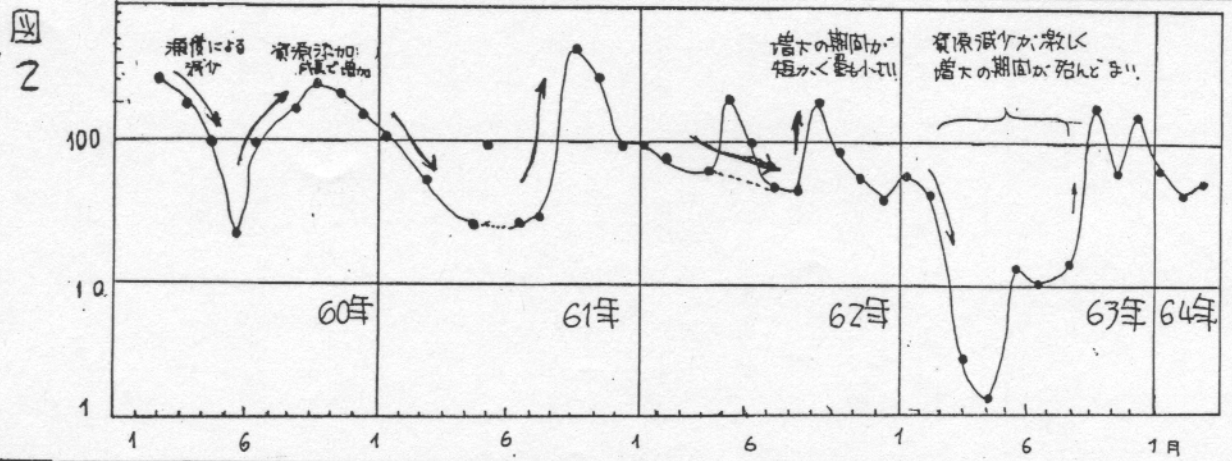
今年もエビ漁の季節を迎えましたが、例年に比べ漁獲量が少なく資源動向が気になります。そこで、今回は、このことを取りあげました。

図1に大正3年から、エビの漁獲量を示しました。昭和12-19年頃に若干採れた時代がありますが、現在ののように2千トン以上も漁獲されるようになったのは、昭和40年代に入ってからです。特に、46年から54年の間は多くエビの全盛時代のかん。がありましたが、その後、低落する傾向が認められます。また、最近4年間の試験操業の結果を図2示しました。



例年6月から10月にかけては資源量の増大が見られますが、62年にはこの増大が見られません。63年は、その影響もあつて春の資源量が極端に少なく、しかも6

110月の増大が見られず9月に入つて、ザザエビが、やつと発生しています。このような資源の流れの中にあつて、今年も出発点の資源量が少なく、秋までは多くは期待できそうにもありません。62年から63年のエビ不漁の原因ですが、62年、63年ともにアオコの発生が異常に少なく代わつてオシラトリア、フオルミヂウム、アナベナ、アファノカプサ等が出ていたところから、その年年の水質やプランクトン発生状況によつて影響を受けるものと考えられます。したがつて、これから先のプランクトン発生状況が、豊凶のカギを握つているわけですが、有限の資源を大切に利用することも重要です。また、先人たちに倣つてエビ巢設置などの増殖対策の検討も必要かもしれません。

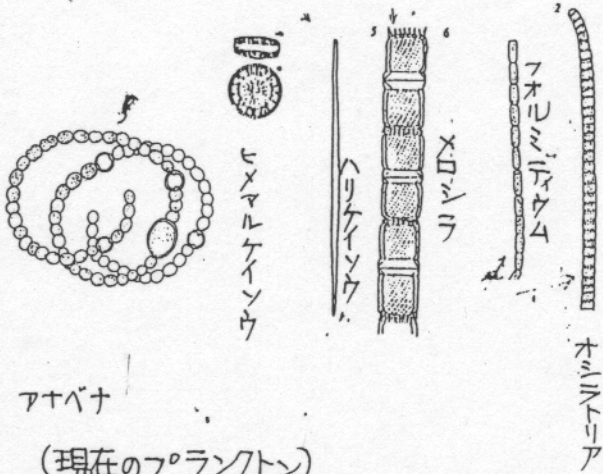


現在の水質

霞ヶ浦では、高浜入りでアナベナが増え始めています。また、昨年発生して酸欠の原因となったオシラトリアも勢力を拡大してきています。現在の水温は20度程度で酸素量も上下共10PPMですが、気温の上昇にともない上下の差が大きくなり、昨年同様7月上旬には高浜入りを中心に下層に酸欠水が形成されそうな気配です。北浦では、水原から上流域でオシラトリアが増殖しています。その数も、2万ヶ/CCと昨年を上回る勢いです。気象条件にもよりますが、照り込んで来れば7月に入り水変わりを起こす可能性があります。

酸欠観測を始めました。

今年も6月19日から酸欠観測をはじめました。観測日は月、水、金です。養殖業者だけでなく一般漁業者の方も観測結果をご利用ください。(電話029951510324, 環境部まで)



霞ヶ浦北浦の水質

項目	霞ヶ浦湖心		北浦白浜沖	
	5月9日	5月25日	5月8日	5月25日
水温	17.1	22.3	16.2	19.7
透明度	100	100	130	110
酸素量	11.2	9.2	9.9	10.3
pH	9.0	8.3	8.5	8.7
全窒素	0.76	0.99	0.81	1.46
全リン	0.062	0.054	0.057	0.047
クロロフィル	40.7	36.5	33.0	38.4
COD	7.3	6.9	7.7	7.2